

令和4年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 外国語科

改善の重点

- ① コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動の充実を図ること。
- ② 1人1台端末を効果的に活用し、単元の指導計画作成や指導の工夫を行うこと。
- ③ 具体的な評価規準及び評価方法を適切に設定し、指導と評価の一体化を図ること。

1 設定理由

中学校学習指導要領第2章第9節外国語の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。」と示されている。コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動を行い、単元を見通して資質・能力を育成することが大切である。

また、GIGAスクール構想の観点から、単元を通して資質・能力するため、活動に応じた効果的なICTの活用が求められる。文部科学省 Studx Style ウェブサイトでは、「外国語教育におけるICT活用のポイント」として、次の3点があげられている。

- 言語活動・練習で活用→児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化を図る。
- 交流・遠隔授業で活用→遠隔地・海外とのコミュニケーションと災害など非常時の対応を図る。
- コンテンツ・授業運営で活用→興味・関心、学習の質を高める。

単元または1単位時間の授業において、ICT活用により指導の効果が高まる場面を見極めたり、指導者が意図をもってICT活用場面を位置付けたりすることが大切である。

さらに、育成を目指す資質・能力を確実に育むために、指導のねらいを明確にし、期待される生徒の姿について具体的にイメージした評価規準と評価方法を設定することが重要である。令和3年度「英語教育実施状況調査」において、CAN-DOリスト形式の学習到達目標を設定している学校は97.5%であるが、学習到達目標の達成状況を把握している学校は72.9%となっている。生徒の学習状況を適切に把握し、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげていくことが求められる。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、具体的な課題を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすること。
- ② 単元の指導計画(指導と評価の計画)を作成し、「1 設定理由」の「外国語教育におけるICT活用のポイント」を踏まえ、1人1台端末の活用場面を設定すること。
- ③ 各学校で設定する学年ごとの学習到達目標に基づき、期待される生徒の姿について具体的にイメージした評価規準と評価方法を適切に設定し、授業改善につなげること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 中学校英語科授業改善パンフレット(平成30年10月、大分県教育委員会)
- ② 早わかり! 単元計画の作成手順 中学校外国語(令和2年2月、大分県教育委員会)
- ③ 文部科学省 Studx Style ウェブサイト 外国語における1人1台端末の活用事例